

高野山満喫ツアー



指導教員

尾久土 正己

プロジェクト名

高野七口活性化プロジェクト

ミッションメンバー

小松未奈・嶋川久瑠実・村田直寛・山下繭花・梓谷愛音・城内美麗・滝本

理菜・鶴田那真

プロジェクト目的

高野山は熊野などとともに「紀伊山地の霊場と参詣道」として2004年に世界遺産に登録され、和歌山県を代表する観光地である。だが、高野山を訪れる観光客は外国人の方や高齢者の方が大半を占めており、若者の観光客の数は少ないのが現状である。若者の高野山・高野七口への関心を高め、若年層の観光客数を増やすとともに、高野七口周辺をより活気の溢れた場所にするため、学生の力を最大限に活用しながら活動していく。また、自発的に活動プランを考え、実行し、高野山の方々とも連携することを通して、観光経営・地域再生の両面において座学だけでは学べないことも学ぶことも目的の1つである。

ミッション概要

日程：10月23日（日曜日）

参加人数：45人（和歌山大学生：20人、ばあむ。：25人）

対象：和歌山大学全学部生

和歌山県の助成金とばあむ。の会費を用いて、私たちがバスをチャーターし、学生を高野山へ案内するツアーを行った。

今回は高野山の本来の姿である宗教地としての魅力を知ってもらい、「本物」の高野山を体験と交流によって感じてもらうことをテーマにツアーを企画した。宿坊体験コースと散策コースの選択制にして、個人のニーズに対応できるプランを作成した。

ミッション目的

高野山は真言密教の宗教地である。そこで、定番な観光地巡りに加え、阿字観体験や写経体験を通して宗教地としての魅力を知ってもらうことを目的とする。次に、和歌山県からの助成金とばあむ。の会費でバスの借用代を補い、ツアー参加者の交通費（和歌山市からなら約3,000円程度）を無料にすることにより、気軽に参加しやすいようにした。浮いた交通費代でお土産やちょっとした食べ物を購入することで高野町にお金が落ちやすくなり、地域経済への貢献が期待できると考えた。また、自主企画のツアー運営を通して、観光経営・地域再生の面から観光学部生としての学びを深める。

活動内容

1. ツアーの企画(5月～10月)

「宗教地としての高野山を体感してもらう」を軸にツアーを企画した。観光地を巡るだけではなく、宿坊での体験を通して、身近だけどあまり知らない仏教に触れてもらい、高野山のコアな部分まで楽しんでもらえることを目標に企画した。

高野山の入り口にそびえる大門をツアーのスタート地兼高野山大学生との待ち合わせ場所に定め、昼食は精進料理を堪能してもらい、そこからコースごとに分かれ行動した。

ただ観光地を巡るのではなく、高野山大学の人に案内していただくことによって個人で観光するだけでは分からない魅力や歴史を知ることや、高野町の方たちと触れ合える機会を作ったりするなどの工夫をした。各コースの最後にお土産や食べ物を購入できるような自由時間を設けた。また下見の結果や高野山大学の方の意見を踏まえ、何度も企画を練り直した。

時間	旅程内容（晴天時・雨天時ともに）	
9：30	和歌山大学出発	
11：30	高野山（大門）到着 徒歩で珠数屋四郎兵衛に移動	
12：00	珠数屋四郎兵衛到着後昼食 食事後コースごとに分かれる（高野山大学の人たちと合流）	
13：30	（宿坊体験コース） 櫻池院で阿字観・写経体験終了後自由行動（阿字観・写経体験の所要時間は約2時間程度）	（高野山散策コース） 奥の院・壇上伽藍散策など（自由時間も含む）
16：45	バス集合（高野山大学内の駐車場） 高野山大学の紹介と軽くお別れの挨拶をしていただく。	
19：00	和歌山大学到着	

2. 参加者の募集（7月下旬～10月）

- ・ポスターや申し込みフォームを自分たちで作成し、TwitterなどのSNSで発信した。学内メールは送信せず、学内でのポスター掲示も行った。またばあむ。メンバー個人個人が部活・サークルなどの団体に宣伝し、参加者を募った。当日欠席者が2名出てしまったが、柔軟に対応できた。最終的に45名の方がツアーに参加した。

- ・デザイン・作成も自分達で担当し、作成。
- ・SNSなどに申し込みフォームのURLを貼ったり、ポスターにQRコードを乗せたりして、参加したいと思った人がすぐに申し込みをできるようにした。

<https://t.co/fq9HoTGGUF>

3. ツアーコースの下見（8月～10月）

ツアーの下見は月に一度の計3回行った。行程に無理はないかなどの確認や、ツアー当日どのくらい観光客はいるのかを3日を通して予測した。また実際にツアーに協力して下さる宿坊や高野山大学の方とよりよいツアーにするために話し合い双方の意見を出し合った。また下見の際、宿坊体験を体験し、メンバーも宗教地としての高野山の良さを体感した。

ツアーコース確定後、下見や会議で行った勉強会の知識をもとに、ツアー参加者に配布するしおりを制作した。しおりにはツアースケジュールだけではなく、メンバーおススメのお土産や高野山の概要や、高野山にまつわる伝説なども掲載した。また、ツアー参加者の保険加入なども入念に行った。

4. ツアー実行（10月）

ツアー当日は高野山を訪れる方が多く、ツアーの参加者も多かったため、周囲の状況を判断し、移動を徒歩で行う予定だったが、バスに変更した。ツアーの様子を写真などにおさめてSNSで発信し、広報活動にも力を入れた。宿坊を体験する時間が長引いてしまい、宿坊体験コースを選択した方は十分に自由時間をとることができなかったが、それ以外は下見を行っていたことにより大きな時間のずれやトラブルなどはなく、無事ツアーを終えることができた。

5. ツアー後のアンケート調査(10月)

これからの活動をよりよくしていくために、今回のツアーの良かった点や改善すべき点、感想などをツアー参加者に回答してもらった。アンケートはツアー終了後のバスの中で回答してもらい、後日アンケートを集計・分析した。項目には、ツアーや高野山についての意見などのほかに、「高野山で購入したものと購入金額」を調査し、今回のツアーを開催した結果、お金がどれだけ地域に落ちるのかを知ることができた。

ミッションの成果(アンケートより)

ツアー参加者に向けたアンケートはGoogle formを用いて作成し、34名(ツアー参加者・ばあむメンバー2回生)に回答していただいた。回答者の内訳は図1の通りである。

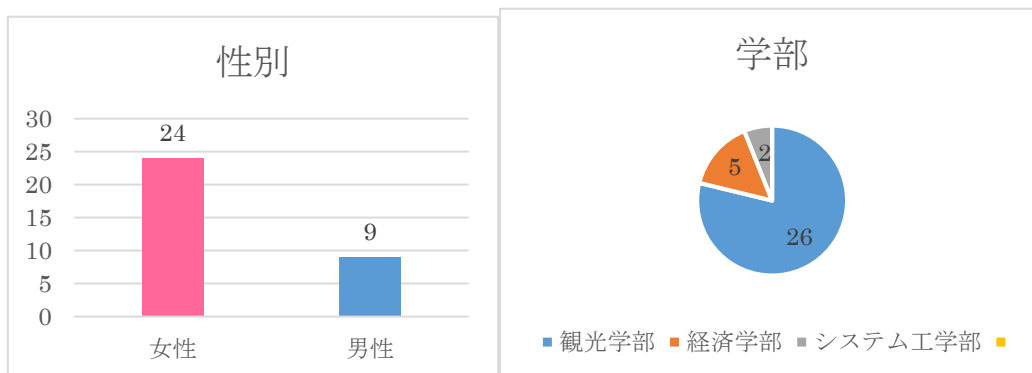
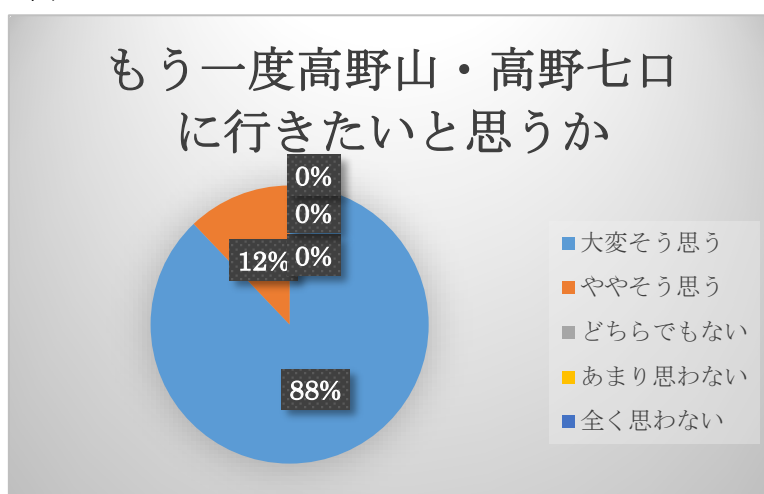


図1

図2

図2は「もう一度高野山・高野七口に行きたいと思うか」という項目の結果を表している。「大変そう思う」「ややそう思う」と参加者全員が回答している。参加者の声は「まだまだ高野山の魅力について知りたいから」「満足度が高かったから」「ほかの人を連れ



ていきたいなと思ったから」などがあつた。このことより、宗教地としての高野山の魅力を体感していただくことができ、楽しんでもらえたことが分かる。また、ミッションの到達の目標の1つである「ツアー参加者の10%が年度中に再び高野山を訪れる」を達成できる可能性がある結果であると捉えることができる。ツアー参加者が訪れたかどうかについてはこれから調査していく必要がある。

お土産の購入金額について到達目標は片道分の交通費程（約1,500円）に設定したが、アンケートの調査結果、図3のような結果になった。一人当たりの平均消費金額は290円となり、目標には届かなかった。このような結果になった要因として2つのことが挙げられる。まず1つ目は宿坊体験コースの自由時間が十分にとれず買い物が出来なかったことである。宿坊体験コースの参加人数が多く、写経の準備や移動などに時間がかかってしまったことが原因だと考えられる。2つ目は参加者が大学生ということで金銭的な面からあまりお金を使いたがらないことが挙げられる。

図4は高野山での購入物を調査(複数回答可)し、集計したものである。上位のやきもちや甘酒饅頭はしおりや道中のバスの中などでばあむ。メンバーのおススメとして宣伝したものである。このことより口コミは宣伝効果があることが判明した。このこ

とより今後は SNS などでは活動報告だけではなく、高野山のオススメお土産や、観光スポット、豆知識などのように私たちだから分かることを配信していきたい。

図 4

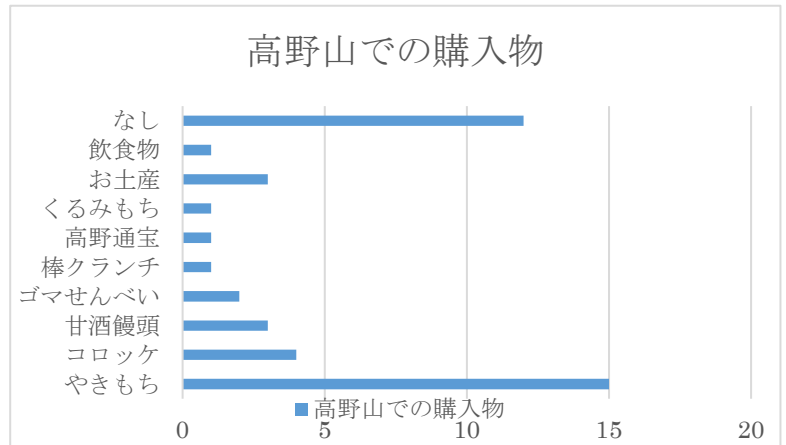


図 3

高野山満喫ツアー	
・ ツアー参加者の消費合計金額 (アンケート回答者 34 名)	
: 9,885 円	
・ 一人当たりの平均消費金額	
: 290 円	

参加者の中で今回のツアー以前に高野山・高野七口を訪れた人は 33 名中 16 名で、そのうち 3 回以上訪れたことがある人は 6 名いた。これからばあむ。として若者が高野山に関わる機会を作っていきたい。

まとめと今後の展開

ツアーを 1 から企画・実施してばあむ。メンバーも高野山についての知識を深められた。また高野山の方ともつながることが出来たので、今後の活動の幅も広がると考える。「また行きたい」と考える人は「行けなかったところに行きたい」と考える人も多く、リピーター獲得を目的にするなら、あえて不十分な部分が残っている方がいいのではないかと考えた。一方、ツアーの準備の際、ツアー班のメンバーは自主的に仕事をこなしていたが、手持無沙汰になるメンバーもいた。より仕事の割り振りを行うことが次回に向けての課題である。

今後の展開としては、今回の改善点やツアーで培った繋がりなどを活かし、活動したいと考える。今年の 10 月に高野町商工会の方たちと共同で女人道ウォークイベントを開催する。そのため高野山の方たちと打ち合わせをして、構想を練っている。今回は一般の方も対象とするため、今までは学内に向けて広報活動を行っていたが、全国に向けて広報活動を行っていく。そのため今まで以上にブログ、SNS の効果的な活用が必要である。どのようにすればもっと地域にお金が落ちるのか、高野山に興味・関心を持つ若者が増えるのか、地域にも私たちにも有益になる活動を積極的に行っていきたい。

今年も多く新しいメンバーが加わり、人数が増えたのでツアーメインの活動という形より、様々なイベントを積極的に行っていく。